井伊直弼
【いいなおすけ】

文化１２年（１８１５年）～万延元年（１８６０年）

近江国彦根藩（現滋賀県彦根市）の１３代藩主で、幕府大老にも任ぜられた人物です。文化１２年（１８１５年）に１１代藩主直中（なおなか）の十四男として生まれました。その後、兄直亮（なおあき）の死去により嘉永３年（１８５０年）に藩主となり掃部頭（かもんのかみ）を称しました。

その後、日米修好通商条約をはじめとする安政の五か国条約に、朝廷の勅許を得ないで調印を断行し、江戸幕府１３代将軍家定の継嗣問題では、徳川慶福（よしとみ）を１４代将軍に決定しました。また、この際、反対派であった一橋派・尊王攘夷派を弾圧（安政の大獄）するなど、辣腕をふるいました。安政５年（１８５８年）４月には大老に就任しましたが、万延元年（１８６０年）３月３日に江戸城桜田門外で水戸・薩摩藩浪士に暗殺され、４６年の生涯を終えました。

彦根藩と佐野の関係は、彦根藩３５万石の領地のうち、飛び地として１万７千石余が現在の佐野市・田沼町にあったことによります。

また、直弼自身は、嘉永６年（１８５３年）３月に日光東照宮への社参の帰路に佐野領の巡見を行い、孝行者・奇特者の表彰や領内の弊政を改めるなどしています。佐野市堀米町の天応寺（てんのうじ）には、井伊家の墓碑３基（直孝、直澄、直弼、市指定文化財）があり、それぞれ遺髪が納められているといわれています。